

幼児が喜んで体を動かして遊ぶための工夫

＝固定遊具の活用を通して＝

浦添市立浦城幼稚園教諭

友利愛子

## 目 次

I	テーマ設定理由	1
II	研究の目標	1
III	研究の仮説	1
IV	研究の内容	2
1	テーマの捉え	2
2	固定遊具の種類と活用の意義	3
3	固定遊具の特性	3
4	固定遊具と運動能力との関係	4
5	固定遊具での年齢による運動能力の発達	4
V	研究の実際	5
1	固定遊具の関わりについての実態調査	5~6
2	固定遊具の工夫	7
(1)	実践例（ブランコ）	7
(2)	実践例（鉄棒）	8
(3)	実践例（樹木）	8~9
(4)	実践例（ジャングルジムと太鼓橋）	10
(5)	実践例（雲梯）	11
(6)	実践例（滑り台）	12
3	公開検証保育指導案（日案）	13
4	公開検証保育指導案（細案）	14~15
5	公開検証保育の評価	16
6	抽出児（C子、S男）の行動	17~19
VI	研究のまとめ	20
1	研究の成果	20
2	今後の課題	20
	終わりに	20
	参考文献	20

# 幼児が喜んで体を動かして遊ぶための工夫

## — 固定遊具の活用を通して —

### 【要約】

喜んで体を動かして遊ぶ幼児を育てるために、固定遊具に関わる幼児の実態を把握し、遊びたくなるような固定遊具の工夫や幼児の興味や発達に合った活動の工夫をして研究を進めてきた。その結果、①多くの幼児が固定遊具により親しみを持つことができた。②固定遊具で遊ぶ楽しさを知り遊びの発展が見られた。③多くの幼児が固定遊具に関わることで社会性が育ち、苦手なことへ挑戦する姿も見られた。そのことから固定遊具で喜んで遊ぶことで運動への意欲が育つことが確かめられた。

### キーワード

□ 喜んで体を動かす固定遊具の工夫 □ 固定遊具を通しての社会性の育成

### I テーマ設定理由

近年、幼児を取り巻く社会環境はあまり望ましいとは言えない。テレビやファミコン、既製の遊具等の普及により室内での遊びが増え、幼児が戸外で体を動かして遊ぶ機会が少なくなってきている。幼児期は身体機能が著しく発達し、特に運動機能は急速に発達する時期である。その時期に全身を使っているいろいろな運動を楽しみ、活動意欲を高め満足する体験を積み重ねることは、身体の調和的な発達を促す上で重要な意味を持ち、将来にわたっての健康な生活に大きな影響を与える。

園には、体を動かして遊ぶ遊具はいろいろあるが、その中でもブランコ、滑り台、雲梯、鉄棒、ジャングルジム、たいこ橋、樹木等の固定遊具は、幼児が身近に遊べる環境の一つである。

そこで、教師としてどの子も固定遊具で遊ぶ楽しさを知り、体を動かす心地よさを味わってほしいと願っている。

固定遊具は柔軟性、平衡性、巧緻性、筋力、持久力、洞察力等の運動能力の発達を促す要素が数多く含まれている。それに関わって遊ぶということは、いろいろな体の動きを身につけ、それによって得た運動の快感や充実感を味わうことができる。又、友達と一緒に活動する中で遊ぶ楽しさや喜びを味わい結果的に体力や運動能力の発達が促され、運動への意欲が育ち健康な心や体を育てることができると考える。

本園の幼児の固定遊具との関わりを見てみると、

入園当初はよく関わって遊ぶが、だんだん関わりが少なくなり遊びが長続きしないため遊びの発展があまり見られない。又、遊具にあまり興味を示さない子もいる。遊具によっては一年中よく関わる遊具と殆んど関わろうとしない遊具がある。それは、幼児の興味、関心がなくなってきただけなのだろうか。固定遊具は、幼児の望ましい発達に刺激を与える遊具として意図的に用意された教育的環境となっているだろうかと疑問を持ち続けてきた。自分自身の保育を振り返って見ると、固定遊具は入園当初の園に慣れるための遊具として意図的に活用してきたが、その後は意識が薄くなってきた。

そこで、固定遊具の教育的意図を見直し、幼児の興味や関心を捉え、遊びたくなるような固定遊具の工夫をすれば、固定遊具に進んで関わって遊び、運動への意欲が育ち喜んで体を動かして遊ぶ幼児が育つであろうと考え、本テーマを設定した。

### II 研究の目標

喜んで体を動かして遊ぶ幼児を育てるために、固定遊具の活用を工夫する。

### III 研究の仮説

幼児の固定遊具に関わる実態を捉え、遊びたくなるような固定遊具の工夫や活動の工夫をすれば、興味や遊ぶ楽しさが増し、運動への意欲が育ち、喜んで体を動かす幼児が増えるであろう。

#### Ⅳ 研究の内容

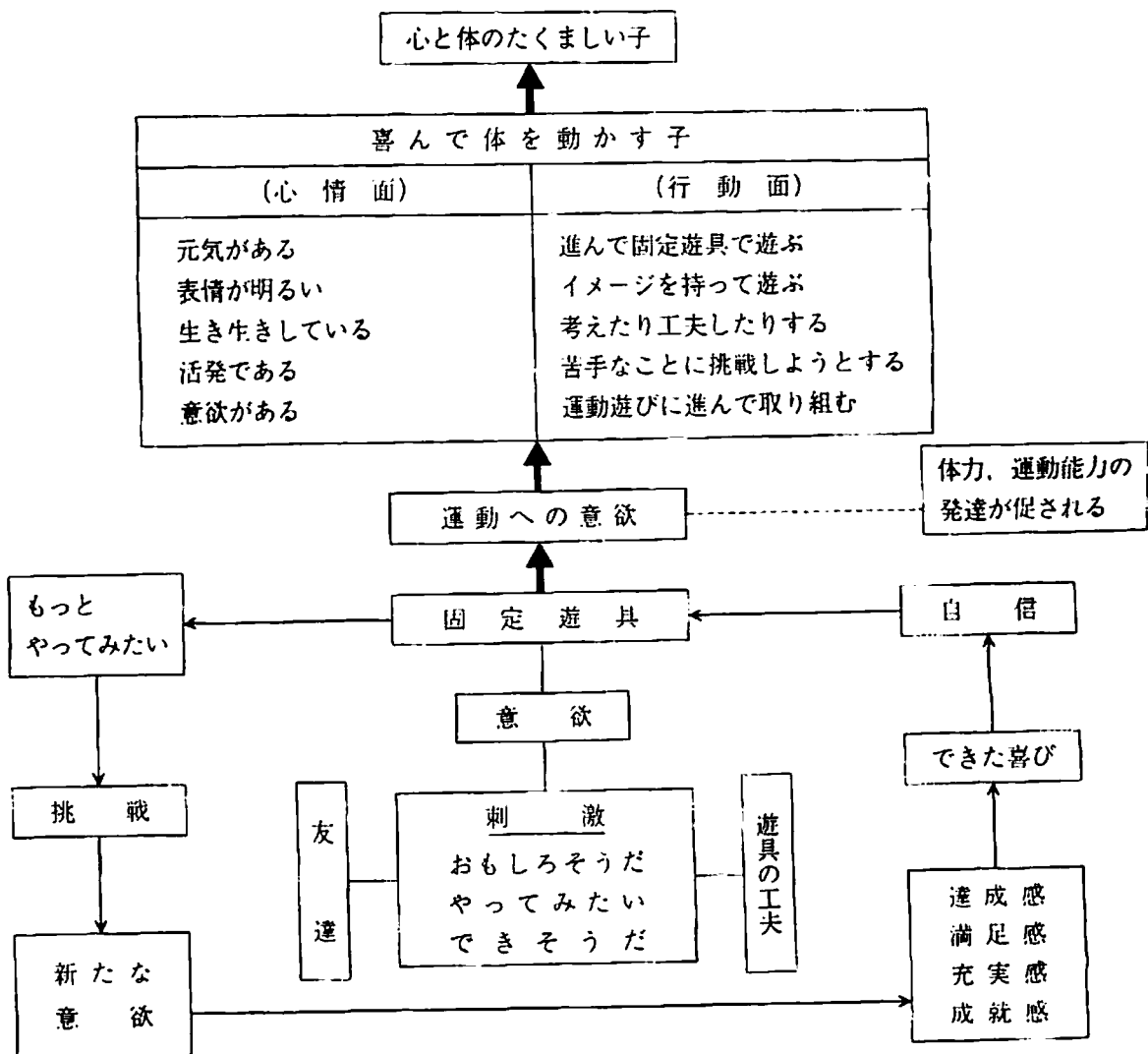
##### 1 テーマの捉え

身体機能の発達が著しい幼児期には、遊びの中で体を動かす喜びや、心地よさを味わうことや遊びを考えたり、工夫したりして遊ぶ楽しさを味わうことは大切である。幼児は生活の中でよく体を動かして遊ぶ。その遊びを通して幼児はいろいろなことを学んだり身につけたりしながら知識を獲得したり動きを身につけたりする。幼稚園には体を動かして遊ぶ活動はいろいろあるが、固定遊具で体を動かして遊ぶということは大人の日常の動きに見られる体の動きの殆どをこの時期に身につけるようになる。

握ったり、つまんだりと言う手や指の動きは紙を折ったり、箸を使ったり、ハサミを使ったり、紐を結んだりすることもできるようになる。

また、固定遊具でぶら下がる、よじ登る、くぐる、回る、揺れる、滑る等のいろいろな体の動きができるようになる。

自分の体が思うように動くことで、できたという「喜び」や「自信」が得られる。喜びは繰り返しを求め新たな意欲を生み出し、遊びを考えたり工夫したり挑戦したりするようになる。そして、結果的に体力や運動能力の発達が促され、心と体のたくましい子が育つと考える。そのために、「おもしろそうだ」「やってみたい」「できそうだ」等の心が動きだす刺激として、「楽しそうに遊んでいる友達、遊具の工夫」が大切な要素だと考える。



## 2 固定遊具の種類と活用の意義

固定遊具にはブランコ、滑り台、ジャングルジム、鉄棒、雲梯、太鼓橋、アスレチック、シーソー、遊動円木、登り棒、回旋塔、つり輪、樹木、砂場…等いろいろな種類がある。

この遊具を使った遊びは体全体を使って遊ぶため、運動遊びとして教育的価値がある。

固定遊具はもともと自然の環境に代わるものとして作られたもので、どの子もそれに関わって遊ぶ楽しさを味わってほしいと考える。そこで固定遊具活用の意義を次のようにまとめてみた。

- (1) 戸外の空気に触れのびのびと体を動かして遊ぶ充実感を味わうことができる。
- (2) 一定の場所に固定されているため積極的に環境に関わろうとする意欲が育つ。
- (3) 多様な体の動きができる。
- (4) 手先の器用さにも役立つ。
- (5) 安全能力が育つ。
- (6) 体力、運動能力の発達が促される。
- (7) 精神的な発達を促す。
- (8) 活動欲求を満足させる。
- (9) 情緒が安定する。
- (10) 知的発達を促す。
- (11) 社会性が発達する。

## 3 固定遊具の特性

固定遊具にはそれぞれの特徴があり精神の発達の側面から見ると次のようになる。

### ブランコ

- ・他の遊具の高さとは異質な高さを体験できる。
- ・高さへの自信を培い高さへの自信は運動への自信につながる。
- ・積極さや勇気が身につく。
- ・めまいをなくす。
- ・自力でこぐため自立精神が養われる。

### 滑り台

- ・勇気、決断力を養う。

- ・安全性を保つための冷静さ、意志力、精神力が育つ。
- ・高さに挑戦できる。

### ジャングルジム

- ・持続性、根気等を育てる。
- ・高い所に登る楽しみや征服感、スリル感を味わうことができる。
- ・高いところに登ることで「新しい視野」を与え、次の高さに挑戦する心が育つ。
- ・バランスをとる能力や落ち着き、注意深さが要求される。
- ・集団で遊べるため競争意識や力比べ、技比べ的な遊びが見られる。
- ・遊具の形状から遊びをイメージできる。

### 雲梯、太鼓橋

- ・注意力、積極性、タイミング感等が育つ。
- ・ぶら下がって渡ったり勇気やスリル感を味わうことができる。

### 鉄棒

- ・水平で高さのある状態に体を傾ける感覚や集中力、判断力、注意力等が養われる。
- ・自己挑戦的な遊びが多く、積極さや粘り強さが発揮される。
- ・成功時の満足感や自信を育てる。
- ・大勢の子が同時にできるため順番を守る、譲り合う等協調性を養う。

### 樹木

- ・高い所に登りたいという欲求を満たし、日常とは違った風景等を体験できる。
- ・木の枝にどこまで登ったら安全なのか等の判断力や安全能力が育つ。
- ・飛び降りたりすることで勇気や決断力が育つ。

#### 4 固定遊具と運動能力との関係

幼児期は基本的な運動の型を獲得する時期で、固定遊具に関わって遊ぶと知らず知らずのうちにいろいろ運動能力の発達が促される。

○関係の深い運動能力 ●最も関係の深い運動能力

運動能力	ブランコ	滑り台	雲梯	たいこ橋	ジャングルジム	鉄棒	樹木
筋力	○		●	○	●	●	●
敏捷性	○		○		●	○	○
瞬発力	○		○	○		○	○
持久力			●	●	○	●	○
柔軟性	○	○	○	○	●	●	●
平衡性	●	○	○	○	○	○	○
調整力	●	●	●	●	●	●	●

#### 5 固定遊具での年齢による運動能力の発達

幼児の発達は心身の諸側面が相互に関連しあって成し遂げられて行くもので、幼児の心身の発達には個人差があるため幼児の発達に合わせて遊具の環境を工夫することは大切である。

	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳
鉄棒 雲梯	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄棒に10秒位ぶら下がることができる。</li> <li>鉄棒の下をくぐり抜けることができる。</li> <li>前においた輪に跳びおることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄棒にぶら下がって足かけができる。</li> <li>前回りができる。</li> <li>こうもりのように足をかけてぶら下がること</li> <li>ぶら下がりながら移動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>足掛け振りができる。</li> <li>足抜き回りができる。</li> <li>ぶら下がって物を移動したり、ジャンケンしたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄棒、逆上がりができる。</li> <li>鉄棒しり上がりができる。</li> <li>雲梯にぶら下がって渡ることができる。</li> </ul>
ブランコ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブランコに腰掛けてこぐことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブランコに立ってこぐことができる。</li> <li>ブランコで大きくこぐことができる。</li> <li>二人こぎをすることができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>一人が座り、一人が立ってこぐことができる。</li> <li>ブランコで立ったり、座ったりすることができる。</li> <li>ブランコで高くこぐことができる。</li> </ul>
滑り台	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな形で滑ることができる。</li> <li>2~3人でつながって下りることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開閉すべりができる。</li> <li>伏しすべりができる。</li> <li>反対かけ登りができる。</li> </ul>		
たジャ イン グ ル ジ ム 橋	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジャングルジムの上まで登って下りることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たいこ橋の前移り、横移りをすることができる。</li> <li>たいこ橋を四つんばいになって登ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登り棒の途中まで登ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジャングルジムでゲームをすることができる。</li> <li>たいこ橋の上から跳び下りることができる。</li> </ul>

## V 研究の実際

### 1 固定遊具の関わりについての実態調査

#### (1) 調査の期日

平成8年9月上旬

#### (2) 調査対象

浦城幼稚園全園児 153名

#### (3) 調査の目的

幼児がよく関わって遊ぶ遊具とほとんど関わろうとしない固定遊具がある。また、よく遊んでいると思われる固定遊具でも遊びが長続きしなかったり、遊びの発展がみられなかったり、ほとんど興味を示さない子も見られる。そこで、好きな固定遊具(図1、表1)選んだ理由(表2)を調査することにより幼児が遊具に親しみを持ち、喜んで固定遊具に関わって遊ぶための指導に役立てるためのものである。

#### (4) 調査の方法と調査内容

◎固定遊具の絵カード5枚を見せる。

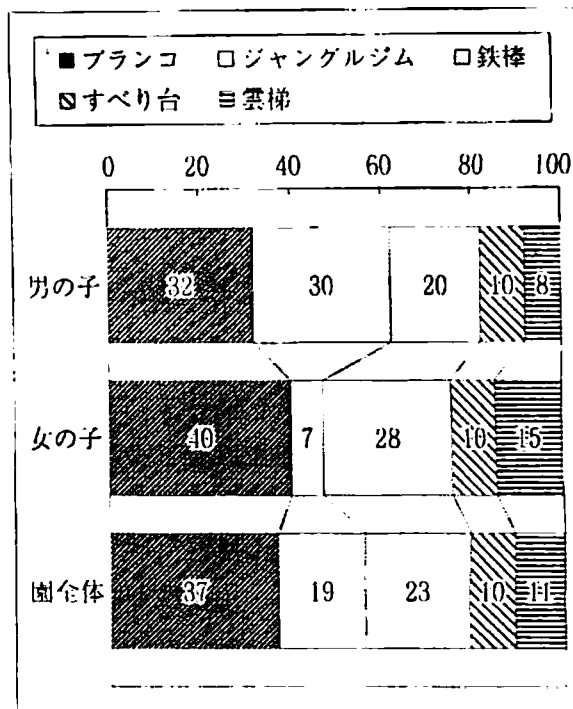
- ・ブランコ
- ・滑り台
- ・ジャングルジム
- ・雲梯
- ・鉄棒

質問1 この中で一番好きな遊具はどれですか (表1、図1)  
◎好きな順にカードを並べさせる。

質問2 1番目に選んだ理由は何ですか  
質問3 5番目に選んだ理由は何ですか (表2)

### [結果]

図1 固定遊具の好きな子の割合



### [考察]

表1 固定遊具の好きな順位

	男児	女児	園全体
1	ブランコ	ブランコ	ブランコ
2	ジャングルジム	鉄棒	鉄棒
3	鉄棒	雲梯	ジャングルジム
4	滑り台	滑り台	雲梯
5	雲梯	ジャングルジム	滑り台

表2 1番日に選んだ理由と5番日に選んだ理由

	1番日に選んだ理由		5番日に選んだ理由	
	男児	女児	男児	女児
ブランコ	二人乗りができる 高くこげる 上手になった ゆれるのが楽しい 風が気持ちいい こぐのがおもしろい やったことがある	二人乗りができる 日をつむると空を浮いているみたい 風が気持ちよい 涼しい、高くこげる こぐのがおもしろい 高いところにいるみたい	こぎにくい 少ししか上がらない 怖い 指が痛くなる ただこぐだけだから	落ちたりする こげない 簡単にできる
滑り台	鬼ごっこする 速く滑る 坂みたいに滑る 滑り台ごっこができる	滑るのが楽しい	滑る時転びそうになる ただ滑って終わり 雨のときスポンがぬれる、上手に滑れない 高いところがいや 手がしびれる だれかがおす おしりを引きずる あまり滑らない 着地面が固い	あまりスピードがない おしりが熱くなる ただ滑るだけ 遊んだことがない 以前転びそうになった 簡単にできない おしりが砂で汚れる 階段を登るのが大変 高いところが怖い
ジャングルジム	登るのが簡単 くぐるから 高い所が涼しい 高いところが見える 迷路みたい	登るのが好き 高いところが好き	あまりやったことがない できない ただ登るだけ	ただ登るから 登るのが怖い 登りにくい 棒が頭にあたる 木みたいに登るから
雲梯	手と足で登る ぶら下がる 上からも行ける	ぶら下がるのがおもしろい 上を渡るのがおもしろい	できない、怖い 手が滑ってやりにくい やったことがない 手が痛くなる	手を離すと落ちる 上手にできない、怖い 難しい、やったことない ぶら下がると手に力が入らない
鉄棒	頭も手もつく ぶら下がるのがおもしろい、いろんなことができる、こうもりみたい	いろんなことができる 得意、難しい、まわって手を離す所がおもしろい、ぶら下がる、しりあがりをする	できない 難しい 下手 怖い 落ちたことがある	できない 難しい 回る でんぐり返しが苦手 怖い

[考察]

- ・幼児は遊具でいろいろな動きができることや、友達との関わり合いを持つこと等に楽しさを感じていると考えられる。
- ・やったことがない、できない、難しい、苦手、怖い等の理由から経験不足や苦手意識を持っているためと思われ、幼児が喜んで遊具に関わるためにはそれを取り除くことが必要だと考える。
- ・ただ登るだけや滑るだけではおもしろさがなく

幼児は変化や刺激を求めていると考えられる。


- ・簡単にできるものは好きでなく難しいから好きという子もいる。そのことから、幼児は少しの困難があることが遊びを楽しくする要因の一つになっていると考えられる。
- ・選んだ理由に男女差は殆ど見られないが1番日に選んだ理由として得意なもの、5番日に選んだ理由として苦手と思われる内容を述べ、5番日に選んだ遊具は好きでない遊具だと言える。




2 固定遊具の工夫

幼児が多くのお友達と関わりを持てるような場づくりに視点をおき、次のような実践をした。


(1) 実践例 (ブランコ)

工夫前の実態		
<p>こげない子が多い。乗りたいが1人乗り用のブランコが4台しかなくて思うように練習できない。いろいろな動きに挑戦したり満足するまで思いっきりブランコで遊びたい子もいる。大きな揺れを怖がったり、バランスがうまくとれなかったりする子もいる。</p>		
遊具の工夫	工夫後の幼児の姿	育ち
<p>大勢で乗れる丸太のブランコ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こげない子も上手な子と一緒に乗ることで、揺れることを楽しみ、上手な子に「A子ちゃんががんばってちょうだい」といいながら喜んでいる。</li> <li>・「一緒に乗ろう」と友達を誘い合って乗っている。</li> <li>・うまくこげない子が揺れるタイミングを覚えたり、こぐ要領をつかんで少しこげるようになってきた。</li> <li>・立ちこぎをしたり、横に揺れたり等いろいろなこぎかたを工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・揺れる</li> <li>・こぐ</li> <li>・相手を認める</li> <li>・協力心</li> <li>・友達関係</li> <li>・自信</li> <li>・工夫する</li> <li>・バランス</li> <li>・意欲</li> <li>・安全能力</li> <li>・満足感</li> </ul>
<p>大勢で乗れるブランコ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「一緒に乗ろう」と誘い合って楽しんでいる。</li> <li>・偶然に一緒に乗ったことから気が合い、終わった後も「一緒にやるたとりしよう」と話している。</li> <li>・「みんなで乗れるから楽しいね」と言って同じ遊びが一緒に出来ることを喜んでいる。</li> <li>・うまくこげない子が「初めて上手にこげたよ」と喜んでいる。</li> <li>・「みんなで力を合わせると大きくこげるよ」と言って、「キャーキャー」言いながら大きくこぐことを楽しんでいる。</li> <li>・手が疲れたり、大きな揺れが怖くなったりすると「とめてよー」と言っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲</li> <li>・友達との関わり合い</li> <li>・こぐ</li> <li>・揺れる</li> <li>・自信</li> <li>・協力心</li> <li>・満足感</li> <li>・共感</li> <li>・バランス</li> <li>・協調性</li> <li>・自己主張</li> <li>・思いやり</li> </ul>
<p>考 察</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大勢で乗れると言うことはうまくこげない子でも揺れる楽しさを味わうことができ、バランスをとれるようになったりこぐコツを覚えたりして遊具に親しみを持つことができると考えられる。</li> <li>・友達と一緒に乗ることで友達関係が育ち、遊びを楽しくしたりいろいろな動きに挑戦しようとする意欲が育ってくる。</li> <li>・大勢で乗ることから自己主張をしたり、相手の気持ちを思いやる場面も見られ社会性の育ちにも影響を与えている。</li> <li>・一度に多くの子が関われることでより多くの子に満足感や充実感を与え、友達関係をも育てる。</li> </ul>	

(2) 実践例 (鉄 棒)

工 夫 前 の 実 態		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄棒は苦手な子が多く、関わって遊ぶ子が少ない。また、鉄棒に飛び上ることを怖がる子もいる。</li> <li>・飛び上がった後も自分の体をうまく支え切れなかったり、鉄棒にお腹が当たって痛いと言う子もいる。</li> <li>・緊張感が強過ぎたり、体が硬い子や前回りかうまくできない子もいる。</li> </ul>		
遊 具 の 工 夫	工 夫 後 の 幼 児 の 姿	育 ち
<p>ロープ、巧技台のはしご、補助具をつける</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回りや逆上がりをしている子もいる。</li> <li>・ロープを使ってブランコを作り揺れを楽しんでいる子もいる。</li> <li>・ブランコのひもを背で乗れるように調節したり、力を合わせて結んだりしている。</li> <li>・「お腹が鉄棒に当たっても痛くないよ」と喜んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登る</li> <li>・回る</li> <li>・握る</li> <li>・結ぶ</li> <li>・協力心</li> <li>・判断力</li> <li>・工夫する</li> <li>・安全能力</li> </ul>
考 察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄棒では、はしごや補助具、ロープを置くことで安心感を持ち、「やって見たい」、「おもしろそうだ」と言う心の刺激になっていると考えられる。又、鉄棒の身近かで遊ぶことで鉄棒に触れる機会を持ち、鉄棒に親しむきっかけを作ることができると考えられる。</li> <li>・どの子も関わって遊べるような工夫をすればやって見ようという意欲を育て遊具に親しみを持ち苦手意識をなくすことができると考えられる。</li> </ul>	

(3) 実践例 (樹 木)

工 夫 前 の 実 態		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・よじ登って遊ぶという経験が少なく木登りを楽しむ子は数人しかいなく、登りたくても自分の体を支え切れない子が多い。また、樹木を遊具として関わって遊ぼうとする姿はあまり見られない。</li> <li>・木登りがしやすいような木が少ない。</li> </ul>		
遊 具 の 工 夫	工 夫 後 の 幼 児 の 姿	育 ち
<p>ロープをつける</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターザンのようにぶら下がる子もいるかどうかどうやってぶら下がったらいいか分からない子もいる。</li> <li>・うまくできない子は他の子をじっと見ている。</li> <li>・できない友達を教えてあげたり手伝ってあげたりしている。</li> <li>・順番を待っているとき、待ち切れずに「えーはやく〜」とか「自分だけ何回もやるな」等とっている。</li> <li>・大きく揺れるためにいろいろな場所から飛び降りる工夫をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぶら下がる</li> <li>・握る</li> <li>・まねる</li> <li>・意欲</li> <li>・協力心</li> <li>・教え合う</li> <li>・順番を待つ</li> <li>・判断力</li> <li>・友達との関わり合い</li> <li>・安全能力</li> <li>・揺れる</li> </ul>

つり輪をつける



- ・軽々と回る子もいる。
- ・できない子は、いすを持ち出してやっている。
- ・次の子が押してやったりしている。
- ・上手な子のやり方を、じっと見たり、「どうするの」と聞いたりしている。
- ・「Dくん、筋肉がなくなっているぞー」「筋肉モリモリ、筋肉マン」と友達を励まし、できた時は拍手をして友達と一緒に喜び合っている。

- ・ぶら下がる
- ・まわる
- ・とぶ
- ・判断力
- ・工夫する
- ・喜びを共感する。
- ・励ます
- ・友達との協力
- ・安全能力

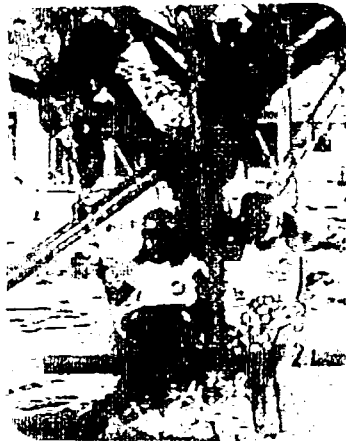
ロープに足掛け用のわっかをつける



- ・片方の足を輪に引っかけて、揺れを楽しんでいる。
- ・くるくる回ることを楽しんでいる。
- ・「落ちたら交代」と言って、自分たちでルールを作って遊んでいる。
- ・「これ簡単だよ」「足が届くから怖くないよ」と喜んでいる。

- ・めまいの感覚
- ・にぎる
- ・ぶら下がる
- ・友達との協力
- ・ルールを作ったり守ったりする。

巧技台のはしごと丸太のブランコをつける



- ・木登りができない子でもハシゴに登り、木の葉をさわったりしている。
- ・木の枝にぶら下がって、降りようとする子に、「木が折れても、知らんからな」と注意している。「折れないから大丈夫」といいながら、危険を感じたのかハシゴを降りている。
- ・よく関わりぶら下がっている。
- ・丸太のブランコと一緒に乗ったり、木登りしている友達に話しかけたりしている。

- ・階段を登る
- ・よじ登る
- ・ぶら下がる
- ・とび降りる
- ・バランス
- ・友達との関わり合い
- ・安全能力
- ・判断力

考  
察

- ・つり輪では、友達のやるのを見たり、何回もやっているうちにだんだんとできるようになってきたり、いすを持ち出してやる等、工夫したり、協力したりする姿が見られる。
- ・足掛けのあるロープでは、ターザンのうまくできない子でも、ロープが地面に近いので、足をロープにのせることで安心感を持つことができ、くるくると回ったりして、遊びを楽しむことができる。
- ・はしこをつけたことで、木登りのできない子もたやすく登ることができる。また丸太のブランコが木登りを楽しくさせる要因の一つとなり、共感し合える事で友達関係が育ってくる。
- ・いろんな方法で降りることを試したり、やってみよう等の冒険心があると考えられる。

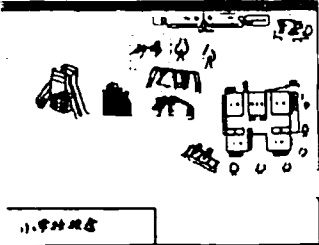
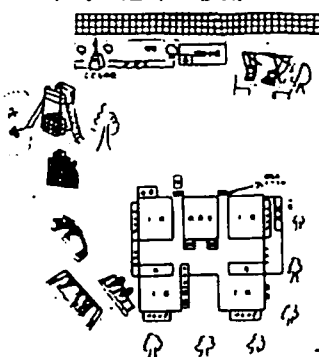

(4) 実践例 (ジャングルジムと太鼓橋)

工夫前の実態		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャングルジムでは入園当初数人の子が登っているが、その後は関わって遊ぶ子は殆どいない。</li> <li>・どうやって遊んだらいいのか分からない子や高いところに登るのを怖がる子もいる。</li> <li>・太鼓橋では渡るのを怖がる子もいるが、やった経験がない子、殆ど興味を示さない子も多い。</li> </ul>		
遊具の工夫	工夫後の幼児の姿	育ち
<p>パラソルをつける</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高いところに登って、「プリマートがみえるよ」「僕のお家はあっちかな」などと周りの様子を眺めている。</li> <li>・パラソルの影に入って「涼しいね」と言いながらおしゃべりを楽しんでいる。</li> <li>・友達が頂上に登っているのを見て、「おまえたちなにしているか」と話しかけながら登って行き、くぐり抜けたり、横渡りをして「こんなに登るとおもしろいぜ!」と言っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よじ登る</li> <li>・爽快感</li> <li>・友達との関わり合い</li> <li>・興味</li> <li>・くぐり抜ける</li> <li>・握る</li> <li>・バランス</li> <li>・工夫する</li> </ul>
<p>ロープをつける</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「山登りだー」と言ってイメージを持って遊ぶ子もいる。</li> <li>・友達同士で「誰が上まで速く着くか競争しよう」と言って競争することを楽しんでいる。</li> <li>・ロープを使っていろいろな登り方や下り方を工夫している。</li> <li>・ロープをいろいろな所につなげたり、樹木につなげたりして遊びを工夫している。</li> <li>・ロープに興味を持って登っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よじ登る</li> <li>・イメージ</li> <li>・競争心</li> <li>・友達との関わり合い</li> <li>・引っ張る</li> <li>・工夫する</li> <li>・興味</li> <li>・握る</li> </ul>
<p>太鼓橋、巧技台、わっか等をつけて連続性を持たせる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おもしろそうだよ」と言いながら友達と一緒に喜んで関わって遊ぶ子が多い。</li> <li>・ジャングルジムから太鼓橋に移っていくことを楽しんでいる。</li> <li>・ジャングルジムでトンネルくぐりやもくらくぐりをしたり、2段目くぐり、3段目くぐり等いろいろな登り方を楽しんでいる。</li> <li>・友達とわっかで揺れることを楽しんだり、雲梯を渡ったりぶら下がったりして遊んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味</li> <li>・工夫する</li> <li>・挑戦</li> <li>・バランス</li> <li>・揺れる</li> <li>・ぶら下がる</li> <li>・友達との関わり合い</li> <li>・握る</li> </ul>
考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャングルジムのパラソルは暑さを防ぎ涼しい感じを与え、幼児が登ってみたいくなるような刺激を与えていると考えられる。</li> <li>・ロープや巧技台等をつけたり、ジャングルジムと連続性を持たせることから遊びに変化が見られたり遊びの工夫が見られた事から、遊具の工夫は幼児が遊びたくなる刺激となっていると考えられる。</li> </ul>	

(5) 実践例(雲梯)

工夫前の実態		
<p>数秒で落ちてしまう子が多く、うまく渡れない子はやろうとしない。また、ぶら下がって落ちるのを怖がる子もいる。上手に渡れる子が少なく、友達との関わり合いがあまり見られない。</p>		
遊具の工夫	工夫後の幼児の姿	育ち
<p>ロープをつける</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2～3段渡って途中で落ちそうになるとロープに乗ったり、ロープで横歩きや交互歩きを楽しんでいる。</li> <li>・ロープの不安定な揺れから飛び降りることを楽しんでいる。</li> <li>・そばでじっと見ていた子が興味を持ち出してやる子もいる。</li> <li>・ロープを渡りながらぶつかり合う場面では「どいて」、「早く行って」等の会話も聞こえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぶら下がる</li> <li>・判断力</li> <li>・工夫する</li> <li>・飛び降りる</li> <li>・バランス</li> <li>・興味</li> <li>・友達との関わり合い</li> <li>・自己主張</li> </ul>
<p>ロープやタイヤをつける</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロープをターザンに見立て楽しんでいる。</li> <li>・向き合ってぶら下がることで関わり合いを持ちキックごっこを楽しんだり、ロープを投げたり受け止めたりして喜んでいる。</li> <li>・ロープを譲り合いながらほかの子のやり方を見てまねをして遊んでいる。</li> <li>・必死でぶら下がりながら、いろいろな乗り方を試している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫する</li> <li>・友達との関わり合い</li> <li>・投げる</li> <li>・タイミング</li> <li>・模倣</li> <li>・ぶら下がる</li> <li>・試す</li> </ul>
<p>ボールをぶら下げる</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールをキックすることを喜んでいる。</li> <li>・落ちそうになっても必死でぶら下がり、ボールをキックするまで頑張っている。</li> <li>・両側から渡りながら早くボールをキックした方が勝ちと言って競争している。</li> <li>・ボールをうまくキックできない子を支えてあげうまくキックできるようにボールを近づけたりしている。</li> <li>・自分の能力に合わせてボールの位置を変えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蹴る</li> <li>・我慢する</li> <li>・ぶら下がる</li> <li>・競争心</li> <li>・工夫する</li> <li>・協力心</li> <li>・思いやり</li> <li>・判断力</li> <li>・目標</li> </ul>
<p>考 察</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雲梯の渡れない子やぶら下がって降りるのがこわい子でもロープがあるので安心して渡ることができ自分の能力に合わせて遊びを楽しむ事ができ、遊具に親しみを持つことが出来る。</li> <li>・楽しそうに遊んでいる友達がいることやロープがあることが「おもしろそうだ」「やってみよう」等の心を動かす要因となっていると考えられる。</li> <li>・自己主張のできる子もいるが、黙って降りる子もいる。又、体をうまくよけたり一時的にぶら下がったりしてお互いに協力しながら友達関係が育っていくと考えられる。</li> <li>・友達の動きをまねしたり試したりして、いろいろなやり方を工夫し目標をもって遊ぶことができる。</li> </ul>	

(6) 実践例 (滑り台)

工 夫 前 の 実 態		
<p>・滑るとお尻が痛いと言う子や滑ると手が熱いと言う子もいる。また、あまり滑らないからおもしろくないと言う子もいる。入園当初は数人の子が関わって遊ぶ姿が見られるが、その後は関わる子が殆どいなく、ただ滑るだけだからおもしろくないと言う子もいる。</p>		
遊 具 の 工 夫	工 夫 後 の 幼 児 の 姿	育 ち
<p style="text-align: center;">工夫前の場所</p>  <p style="text-align: center;">砂場の近くに移動</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの幼児が喜んで関わって遊ぶようになり滑る面を逆に登ったり、横から登ったりして遊びを楽しんでいる。</li> <li>・「上は天国だよ、下は地獄だよ」というイメージを持って遊んでいる。</li> <li>・立って滑ったり、仰向けにすべったり、途中で止まったりする等いろいろな滑り方を工夫している。</li> <li>・砂場で遊んでいる子に話しかけたり、砂場で遊んでいた子が滑り出したり、石ころや砂を転がしてみたりしている。また、石ころを転がしている子に「えーあぶないだろう」と注意している姿も見られる。</li> <li>・戸外に出るとすぐに滑り台で滑ってから、他の遊びに移る子もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滑る</li> <li>・登る</li> <li>・工夫する</li> <li>・イメージ</li> <li>・友達との関わり合い</li> <li>・試す</li> <li>・自己主張</li> <li>・協調性</li> <li>・意欲</li> <li>・興味</li> <li>・注意力</li> </ul>
<p style="text-align: center;">ロープをつける</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2～3人でつながることを楽しんだり、ロープをいろいろな所につけてよじ登り、難しい動きに挑戦したりしている。</li> <li>・回りで遊んでいた子が友達が遊んでいるのを見てやりだす子もいる。</li> <li>・滑り台の下に砂を運んでまごごをする子がいたり、時々、滑りながら買い物に行ったり等している。</li> <li>・「滑ってもお尻が痛くないよ」と言って何回も滑る子もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達との関わり合い</li> <li>・挑戦</li> <li>・興味</li> <li>・イメージ</li> <li>・工夫する</li> <li>・滑る</li> <li>・よじ登る</li> </ul>
<p>考</p> <p>察</p>	<p>・滑り台に関わって遊ぶ子が増えたり、遊びを工夫したり難しい動きに挑戦したりして遊びを楽しむ姿が見られたのは、滑り台を砂場の近くに移動したり幼児の動きやすい位置に登る階段があることが考えられる。</p> <p>・滑り台で関わって遊んでいる友達の刺激を受けて、幼児は進んで遊具に関わりを持つようになりいろいろな動きを試したり、挑戦したりするようになる。</p> <p>・いろいろな動きが出来るようになると、自信がでてさらに難しい動きに挑戦しようとする意欲がでてくると考えられる。</p>	

活 動 の 設 定 理 由		
<p>これまで固定遊具は好きな活動の中で、自由に関わって遊んできた。ロープをつけたり、遊具を移動したりして変化をつけることで親しみを持って遊び、その繰り返しの中で運動への意欲が育って行くと思われる。2学期後半に竹馬や跳び箱にチャレンジして遊んだ経験や、1月になって「ほくできないや」のOHPを見たことから苦手なことに挑戦しようとする気持ちが育ってきているため、友達と一緒に取り組む活動を通して遊具で遊ぶ楽しさを一層深めていきたい。</p>		
ね ら い	<p>・グループの友達と協力したり、相談したりしながら工夫した固定遊具でいろいろな動きを楽しむ。</p>	
内 容	<p>・工夫した固定遊具にチャレンジして遊ぶ。 ・友達と相談したり、協力したりして遊ぶ。</p>	
時間	一日の活動の流れ	教師の援助
8:15	① 登園 所持品の始末をする。	<p>・一人一人の思いを受け止めながら、あいさつをかわし、心身の状態を把握する。</p> <p>・すぐに活動にとりかかりたいという子供の思いを受け止めるだけ待ち時間は短くするように手順よく進める。</p> <p>・前の活動を確認できるように、環境図を提示する。</p> <p>・危険な遊び方を説明して、安全に遊べるように話しかける。</p> <p>・活動がスムーズにできるように、グループでの活動の仕方や遊ぶ順序等を知らせる。</p> <p>・数字の分からない子もいると思われるので、数字カードで知らせる。</p> <p style="text-align: center;">別紙指導案参照</p> <p>・チャレンジの終わったグループは、好きな遊びに取り組めるように室内の環境を整えておく。みんなと取り組む中で興味が深まって固定遊具の遊びを続ける子もいると思われるので安全を常時確認する。</p> <p>・自分で使った物や、他の子が使った物もみんな協力して片付けができるように促す。</p> <p>・和やかな雰囲気ですべてをいただけるようにする。</p> <p>・頑張ったことや、楽しかったこと、困ったこと等が発表できるように話しかける。</p> <p>・明日の活動につなげていけるようにする。</p>
8:30	② 朝の会	
8:45	③ 集会室……帽子をかぶって集まる ・うた〜がんばりまんのうた ・今日の活動についての話を聞く ・くじ引きをする ・カードに名前を書いてもらう ・園庭で待つ	
9:15	④ 固定遊具でチャレンジして遊ぶ すべり台、雲梯、ブランコ、たいこ橋、ジャングルジム、ターザン、鉄棒	
10:30	⑤ 室内で遊ぶ（こま、カルタ、トランプ、はねつき、まりつき）	
11:30	⑥ 片付け ・遊具や道具を整理する。 ・手荒い、うがいをする。	
12:00	⑦ 弁当をいただく ・準備、あいさつ、弁当、はみがき、掃除をする。	
1:00	⑧ 降園準備 ・絵本、今日の活動についてのお知らせを聞く	
1:30	⑨ 降園	
評価の観点	<p>・固定遊具に喜んで関わりいろいろな動きを楽しむことができたか。</p> <p>・グループの友達と相談したり、協力したりして遊びを進めることができたか。</p> <p>・教師の援助や環境の構成は適切だったか。</p> <p>・安全に気をつけて遊ぶことができたか。</p>	

〈授業仮説1〉

・いろいろな動きを経験したり、友達の動きを見たりすることで、固定遊具により親しみを持つことができるであろう。

環 境 の 構 成

すべり台

- ・ロープで斜面を登る。
- ・いろいろな方法ですべる。
- ・あおむけ、腹ばい、すわる、立ちすべり、列車になって



・登ったり、降りたりするタイミングの分からない子には、安全な乗り降りの仕方に気づかせるような声かけをする。

樹 木

- ・ターザンに乗って遊ぶ
- ・大きく揺れる
- ・飛び降りる



・危険がないように見守る。  
・スタンプを自分たちで押せるように、机やスタンプを用意しておく。

鉄 棒

- ・つばめ
- ・こうもり
- ・自転車
- ・ふとんほし

・正しい手の握り方の分からない子には、危険なことを知らせ正しい手の握り方が身につくようにしていく。  
・鉄棒におなかを乗せると痛がる子のために補助具をつけておく。



ジャングルジム

- ・もぐらくぐり
- ・山登り
- ・忍者わたり
- ・忍者おり

・高い所でこわがっている子にはしっかり足をつけることや、しっかり手を握ること等の声かけをする。  
・「大丈夫」と言って安心感を持たせたり、励ましたりする。



園



〈授業仮説2〉

・友達と一緒に相談したり、協力したりして遊びを進めることで固定遊具に関わる楽しさが増し、意欲的に体を動かして遊ぶであろう。

予想される幼児の活動

教師の援助

ブランコ

- ・いろいろな乗り方を楽しむ。
- 一人乗り
- 二人乗り（向き合う）  
（正面向）
- 立ちこぎ、数名乗り



- ・こいでいるブランコの前を通らないように声かけをする。
- ・危険な乗り方をする子には、何故危険なのかを知らせ、安全な乗り方に気づかせていくような声かけをする。

雲梯

- ・わたる
- 一段越、2段越、3段越
- ・ぶら下がる
- ・ボールをキックする。

- ・うまくできない子には、子供同士の支え合う姿を見守りながら、必要に応じては、教師が手助けをしていく。
- ・着地が安全にできるように下にマットを敷く。

舎



たいこ橋

- ・四つんばいで渡る
- ・ジャンケンで遊ぶ
- ・飛び降りる
- ・くぐり抜け



- ・安全にくぐり抜けができるように台を準備する。
- ・飛び降りる衝撃を避けるため下にマットを敷く。

## 5 公開検証保育の評価

### (1) 授業者の評価

- ・すべり台はロープを使って登ることを楽しんでた。自分の好きな登り方でなくグループで力を合わせて登ったり降りたりする方法がより楽しく遊べたのではないかと思う。園長先生の「ストップ」「何人で登れるかな」等の言葉かけで幼児が喜んでやったのは、参考になった。
- ・ジャングルジムでは、負けた人から降りるという声かけをしたら、ジャンケン遊びを楽しむことができた。
- ・鉄棒ではこわがって泣く子もいたが、友達の刺激を受けて頑張っており「できてよかった」と満足そうにしていたのは良かった。いろいろな動きを繰り返しやっているうちに、筋力や握力がついてきて、身のこなしが器用になっていた。又、慣れたせいかジャンケン遊びをしたり、高い鉄棒へと挑戦していく意欲がでてきたのは良かった。補助具は必要に応じて取りはずすことも大切である。
- ・雲梯ではボールをけることを楽しむ子や2段渡り、3段渡りを楽しむ子が見られた。「手がすべるよ」と言って手に砂をつけてやる子を見てまねする子もいた。
- ・ブランコでは5人で座る人立つ人を相談したり、暗黙の了解で好きな位置に乗り、力を合わせてこぐのを楽しんでいた。うまくこげない子が友達のこぐのに合わせて、リズムをとれるようになったり、高くこげるのを喜んだりしている姿も見られた。こわがる子もいたが、「こわいよー」「とめてー」等と合図をすることで他の子はゆっくりこぎ、グループでの協力が見られた。大勢で乗れることが楽しいようだ。
- ・たいこ橋ではどの子も簡単に乗れるが、くぐり抜ける動作はうまくできない子もいて、補助が必要だった。
- ・回数を重ねているうちに要領が良くなってきた。
- ・樹木のターザンでは1学期から環境を作っておいた割にはどうやってぶら下がったらよいかわからない子や、ゆれるのをこわがる子が多かったのは意外だった。意図的に関わらせる工夫が大切だと思われる。
- ・活動を終えた後で、「次はこままわしとか、竹馬とかもやろうよ」という声が聞こえた。
- ・グループからはずれてしまう子やトラブルを起こす子もいたが、自分勝手な行動や相手の思いに気づくことができ、その子の発達にとって大切な経験をすることができた。
- ・教師が協力し合い、クラスの枠をはずして活動を進めていく姿が、子どものチームワークを育てていくと思える。

### (2) 授業参加者の評価

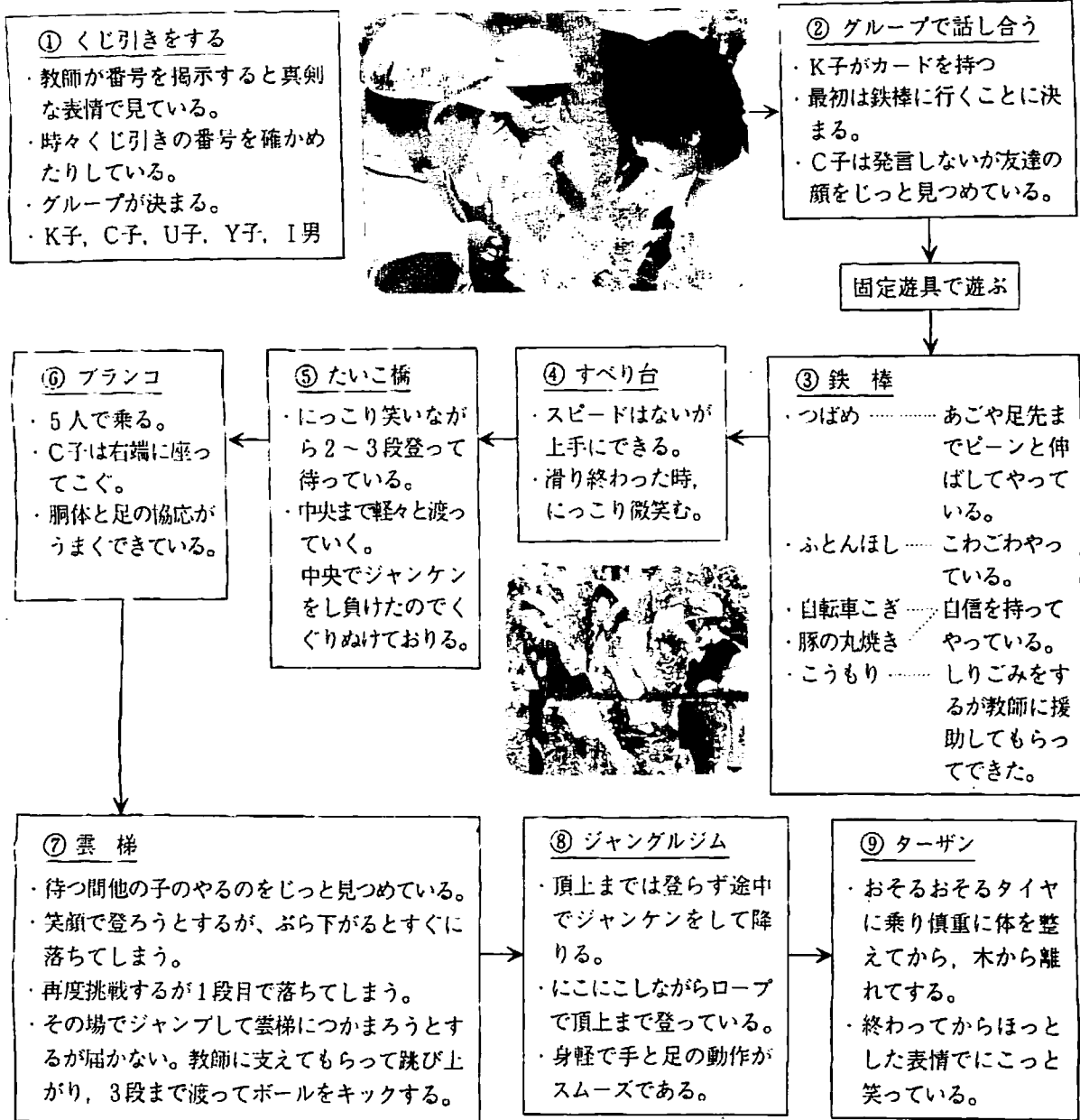
- ・幼児の行動は能率的ではなく、興味・関心で、本能的に動くという幼児期の特性を知ることができた。
- ・握るという動きは危険から身を守るために大切な要素なので、遊びの中で握る（つかむ）という動作が多く入っているのは大変良かった。
- ・鉄棒での教師の言葉かけは、楽しさが増加し、イメージが湧き活動を楽しむことができる。
- ・ブランコ、すべり台等スピード感やスリル感は幼児期に育てておきたい感覚で、全員で取り組む活動を通して全園児がそれに関わる経験をしたのは良い刺激になったと思う。
- ・ターザンのロープで友達同士で教えてあげたり、手伝ってあげたりする姿が見られた。
- ・待つ場面でも、緊張感があったり、友達の動きを視たりする等精神面での学習の場となり、大切なことだと感じた。

6 抽出児（C子、S男）の行動

(1) C子の実態

※家族構成 父、母、姉、兄 ※保育歴 1年

おとなしくて消極的な性格で、自己表現が苦手である。絵本やままごと、お絵かき等室内遊びを好む。運動的な遊びは苦手で、ケンケンができない、雲梯を怖がる、ブランコがこげない等の姿が見られる。



[ 考 察 ]

- ・C子の表情は始終、笑顔で遊んでいることから活動を楽しんでいると考えられる。
- ・たいこ橋は得意と思われ、2～3段先へ登って待っている様子から運動への意欲が感じられる。
- ・雲梯のうまくできないC子は、「ボールをキックする」という身近な目標があることで、3段まで頑張って渡ることができた。そのことから

C子なりの目標となるようなボールがあったことがC子の「意欲」や「できた喜び」の要因になったと考えられる。

・ターザンでは恐る恐る経験しながらも終わった後でにっこりしたことから喜びが得られたと考えられ、その小さな経験の積み重ねが、「もっとやってみよう」「できるまで頑張ってみよう」等の意欲や挑戦する気持ちが育っていった。

(2) S男の実態

※家族構成 父、母、姉(2人)、祖父、祖母、曾祖母

※保育歴 1年

S男は、はきはきして明るい性格だが、運動遊びは苦手である。ブランコはうまくこげない。太鼓橋は上から渡るのを怖がる。また、鉄棒やジャングルジムには殆ど関わろうとし

ない。雲梯にはぶら下がってもすぐに落ちてしまう。教師が誘っても避けようとする傾向が見られる。

① くじ引きをする、グループで話し合う

- ・「28番の人カードを持ちたい人いますか」とS男が呼びかけ、全員が手をあげたのでジャンケンで決め、S男がカードを持つ。
- ・一人一人に「何からやりたいか?」と聞いて順番を相談して決めている。

(相談の結果)

- ① ターザン ② 滑り台 ③ ブランコ
- ④ ジャングルジム ⑤ 太鼓橋 ⑥ 雲梯
- ⑦ 鉄棒

③ ブランコ

- ・S男は立ち「1・2・3……」と声に出して数えているが、緊張の様子。あまり大きくこげなかったが「楽しかった」と言っている。

④ 滑り台

- ・鉄棒の方向へ歩きかけてから、皆には何もきかないで滑り台へ行く。
- ・S男は途中までロープなしで登る、逆立ちをして降りる。「スーパーマンでーす」と教師に声をかけられ喜んでいる。

② ターザン

- ・S男が1番に乗り、回りの安全を確認してから揺れ始める。全員が終わると、S男がスタンプを押す。



⑤ ジャングルジム

- ・グループの皆はさっさと頂上まで登るがS男は途中まで登り、皆が降りてくるのを待って「次は鉄棒だぞー」と大声で叫びながら走って行く。



⑥ 鉄棒

- ・グループで待ちながらシールを数えたり、D男とおしゃべりを楽しんだり、友達がやるのを真剣な顔で見ている。
- ・「ふとんほし」をしているI男に「おまえ痛くないのか?」と声をかけたり、うまくできない友達を見て「わっはっは」と大声で笑ったりしている。
- ・「こうもり」が低い鉄棒でもできないので、「ぶたのまるやき」の動作をして「上手だね!」と教師にほめられる。

⑦ たいこ橋

- ・さっさと渡り教師に「上手だね!」とほめられ喜んでいいる。たいこ橋の中央でジャンケンをし負けたので、教師に支えられてたいこ橋をくぐり抜けて降りる。

⑧ 雲梯

- ・並んで待ちながらおしゃべりをしたり、動き回ってボールをキックしたりひもを回転させたりして教師に注意される。
- ・友達がボールをキックするのを見て喜んだり、「がんばれ!がんばれ!」と手をたたいて応援したりできない子を手伝ってあげたりしている。
- ・S男は3段目で落ちるが再度挑戦してボールをキックできた。その後、足を地面につけながら雲梯を最後まで渡ってにっこりしている。

《S男の答えた楽しかった順序》

- |           |        |        |
|-----------|--------|--------|
| ① 鉄棒      | ② 雲梯   | ③ たいこ橋 |
| ④ ジャングルジム | ⑤ 滑り台  |        |
| ⑥ ブランコ    | ⑦ ターザン |        |

【考察】

- ・カードを持つ人をジャンケンで決めたり、順番を話し合う等幼児が相談し、判断し、遊ぶと言う主体的に行動する意欲が感じられる。
- ・順番に話し合っていたが、実際には違う行動をしており、S男は興味本位で行動したり周りの動きを見ながら臨機応変に判断して行動できる。
- ・ターザン、ブランコ、滑り台等では皆と同じような動きをしていたので運動面での発達の遅れは感じられなかったが、ジャングルジムでは頂上まで登らず「おりれー」と叫んでいたことから、高い所に登るのが苦手だと思われる。
- ・鉄棒はいろいろな動きがあり待つと言う場面があったがS男にとっては友達の動きをじっと見ることによって我慢強さも育ってきていると思われる。又、できない動きを再度挑戦している姿から運動への意欲が感じられる。
- ・鉄棒、雲梯、ジャングルジム等の主に握力を要する遊びは苦手意識を持っていたが、楽しかったものに「鉄棒」や「雲梯」と答えたのは苦手なことを避けようとせず挑戦しようとする気持ちが育ってきていると思われる。S男にとって適度な困難のある遊びが運動への意欲を育てていると考えられる。

## VI 研究のまとめ

### 1 研究の成果

#### 【結果】

<全体の幼児>

- ・進んで関わる子が増えた。
- ・いろいろな動きができることで「自信」がついた。
- ・遊びを工夫したり遊びに発展が見られた。
- ・友達との関わり合いが多くなった。

<抽出児>

- ・友達と一緒にいろいろな動きを楽しむことができた。
- ・自分なりの目標を持つようになってきた。
- ・いろいろな動きかできたことで自信を持ち苦手なことに挑戦するようになった。

#### 【考察】

遊具に興味を持たせ、多くの幼児が関わって遊ぶためには遊具の工夫は効果的といえる。

友達と一緒に活動することは遊びを楽しくさせる刺激を与えている。

#### 【結論】

- ・固定遊具でいろいろな動きを体験することは、「やってみる」ことによって「親しみをもち」、「親しむ」ことによって「楽しさが分かる」という運動への意欲を育てることができる。
- ・遊具の工夫や活動の工夫は幼児の苦手意識を取り除き、遊具に親しみをもちことができ固定遊具で進んで遊ぶようになり、喜んで体を動かして遊ぶ幼児を育てることができる。また、ウォークラリーのような活動は運動への意欲を育てるのに効果的である。

### 2 今後の課題

- (1) いろいろな運動遊びや他の活動との関連を考慮しながら、指導計画の中に固定遊具の活用を位置づけていきたい。
- (2) 幼児の発達の時期を捉えて主体的に関わる活動の展開を工夫していきたい。

#### 終わりに

「こうもりできたよ」「つばめもできたよ」と自信たっぷりの子供達の顔を見ていると、一人でも多くの子に体を動かす楽しさを知らせることができて良かったと心から嬉しく思います。この研究の成果を生かして、今後、日々の実践に精進していきたいと思います。

6ヶ月間の研修期間を与えてくださいました、浦添市教育委員会をはじめ、懇切丁寧にご指導下さった比嘉美也子指導主事、宮城久子指導係主査、研究所の田中一郎所長をはじめ諸先生方に心から感謝申し上げます。

また、入所を勧めてくれた副園長の高安幸子先

生、喜びも楽しみも、そして、苦しみも共に分かち合った研究員の皆様にも心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、研究所に快く送り出し公開検証保育にも協力し、陰ながら私を支えて下さった渡名喜一昌園長先生をはじめ、職員伊礼アツ子先生、石嶺篤子先生、藤吉真弓先生、仲間幸子先生、新垣三恵子先生、比嘉悦子先生、玉城妙子先生に心からお礼を申し上げます。有り難うございました。

#### 【参考文献】

- 幼稚園教育指導書（増補版） 文部省  
健康 近藤充夫 ひかりのくに  
望ましい経験やシリーズ120（運動、安全）  
岡田正章監修 チャイルド本社  
体育あそび120 近藤充夫監修 チャイルド本社  
幼児体育の理論と実際 勝部篤美 杏林書院  
幼児の教育用語辞典 平井信義 教育出版株式会社  
幼稚園じほう 全国国公立幼稚園協会  
平成7年5月1日発行